

# 「2018年度立命館大学体育会剣道部道場合宿を通じて」

2018年5月16日

執筆者：2回生 上村 政紘

(三重県 県立松阪高等学校出身)

私は、2018年度立命館大学体育会剣道部道場合宿を通じて、二つのことを学びました。

一つ目は、「伝えることの難しさ」です。一回生の時に経験した道場合宿とは違い、自分たちが運営していく立場となったことで、伝えること、教えることがたくさんありました。ミーティングでの話し方、練習中に鼓舞する際の盛り上げ方を自分なりに工夫したつもりでした。しかし、いざ実践してみると、求めていた反応を得ることができなかつたり、うまく伝わっていなかつたりと、思うようにいきませんでした。人に何かを伝えるということは、とても難しいことだと実感させられました。このことを二回生である今の時期に学べたことは、将来、私が四回生となり、「部全体を率いていく際にとっても大きなヒントとなる」と思いました。

二つ目は、「常に考えながら行動する」ことです。合宿を運営するとなると、指導陣の方々やOB・OGさんへの対応、練習中の時間配分に対する注意、更には宿舎での行動など、様々なことに対して常にアンテナを張っていないとうまくいきません。これは合宿のみならず、普段の練習にも通ずることであり、今後社会に出てからも必要になってくる重要なスキルでもあると感じました。「常に考え、アンテナを張ることで、広い視野を持って、予測不可能なことにも対応できる」ということを学ぶことができました。

最後に、今回の道場合宿を機に、日頃の練習・生活から常に考え、工夫をしながら過ごしていこうと思います。それは、自分自身がより立命館大学体育会剣道部に貢献できるようになるため、また、卒業後にしっかりと社会貢献できるようになるためです。今後とも、指導陣の先生方を含め、OB・OGの先輩方、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

